

令和5年度第2回どっぴり高知旅キャンペーン推進委員会でいただいたご意見及び対応

項目	いただいたご意見	対応
キャンペーン全体	年間のスケジュールだけではなく、4年間を通した全体のスケジュール感を把握したい	資料10のとおり
誘致・広報	旅行会社に対するどっぴり関連商品の支援やロングステイに対する支援等を行ってほしい	旅行会社向けに、団体バスでのロングステイや、どっぴり体験が楽しめるような自由時間の設定に対するインセンティブ(令和6年度下期催行分から)を、専門部会のご意見もいただきながら検討する。
	WEB発信では単なる写真や動画ではなく、商品化して発信することが重要。さらに発信を通じた手配発注や受け入れを行う観光協会との連携を強化してほしい	観光協会と連携しながら、コンテストで受賞した商品や、新たに造成された商品などを写真や動画で発信していく。
	発信手法でSNSの活用は重要。若年層の女性に広げる仕組みづくりは同年代の方から意見をもらってはどうか。4年間の計画の中で1年目と4年目ではベストな発信の手法は変化するので、専門的なアドバイスを参考にしつつ臨機応変に発信を行ってほしい	女性職員や、WEBマーケティングに精通している人などにも意見をいただきながら、どっぴり高知旅キャンペーンにおける効果的なSNSの活用方法を探っていく。
	若い女性には目的地に辿り着きやすいかどうかの発信が重要。現地に行くまでのハードルを下げること、行きやすさ・気軽さのPRが必要	女性や若年層に対して、昨年度以上にプロモーションが届くよう、今年度からTikTokの運用を開始する。Instagramを通じ目的地までの交通情報や駐車場など伝えつつ、TikTokのショート動画を通じ、高知旅の気軽さなどを訴求していく。
	広報ツールとして車窓の写真を起用し、旅のプロセスも楽しめるという点を発信してはどうか	公式ガイドブックなどでも、主要観光施設だけでなく、周辺の寄り道スポット的な場所も紹介し、道中の楽しさを伝えるような発信を工夫していく。
	広報の視点から県内メディアの協力は必須。メディアへの投げ込みだけでは結果の羅列だけになるので、メディアの関心度を上げて経過情報をいかに見せていけるかが課題	県内メディアと積極的に接点を持ち、経過の情報をかみ砕き、県内メディアが取材をしたくなるような情報発信を行っていく。
	今年5月で路面電車は運行120周年となるため、何かコラボできれば	「あんばん」でやなせさんゆかりの地や高知の漫画・アニメ関連スポットに注目が集まると考えられることから、南国市やいの町などのコンテンツと路面電車を組み合わせた商品づくりなど一緒に考えていきたい。
	コンテストの県内学生向けは一般募集でかまわないが、観光商品づくりの取り組みを行っている高校には直接投げかけてはどうか	投げかけも検討する。その他、学生と連携した取り組みとして今年度は、高校生や大学生に観光の取組や業界に興味を持ってもらえるよう、ガイド体験会やガイドのお手伝いをする機会を設けることとしている。
受入	コンテンツ作りの段階からどのように迅速に販売するのか販売方法を検討してほしい	OTAで販売できる個々の商品はOTA等で販売し、複数のコンテンツを束ねたコースは、広域観光協議会等のツアー商品として旅行会社等にセールスを行っていくことを想定している。
	観光協会や広域組織が予約から手配までできるような仕組みづくりを考えてほしい	どっぴり体験ができる商品を旅行会社に売っていただく、また、着地側で自由時間にどっぴり体験を楽しんでいただくためには、観光協会や広域組織の果たす役割が大きいと考えている。旅行会社向けのインセンティブの設計とあわせて、先行して取り組んでいる四万十市観光協会の事例を参考に、横展開ができるよう施策を検討していく。
	らんまんが賑わった時期に各エリアでお昼を食べられるところが少ないという声を聞いた。観光協会等で地域独自の体験+食事をセットにした商品を展開できるようにできないか	地域での商品造成に取り組む中で、周辺施設での食事を含むツアー商品の造成にも取り組んでいく考え。また、集落活動センターとも連携し、中山間地域では、移動販売やキッチンカーの活用も検討していく。
あんばん	「あんばん」に伴い、今後來場者が増加することを考えると、若い年齢層の家族連れが増えると予想される。小さなお子様連れが利用しやすい飲食店やトイレ、授乳スペース等の必要な施設の整備に向けて皆様のご協力が必要だと感じている	宿泊事業者を対象とした設備等に係る国の補助制度の説明会開催や、市町村等又は市町村等が補助を行う団体が実施する観光拠点の整備に係る観光振興スポーツ部の補助制度など、活用できる制度を紹介していく。香美市の美良布地区のトイレには、おむつ交換台やキッズ用トイレ便器を整備される予定と聞いている。併せてソフト面では、アンパンマンミュージアム周辺を含む県内観光施設の子ども連れの客層に向けた情報を専用WEBサイトに掲載するなど、施設情報の充実及び発信に努めている。